

うつほ物語と平安時代像

奈良女子大学古代学学術研究センター・研究会

平安時代を代表する文学作品といえば、多くの人がまず『源氏物語』を思い浮かべるでしょう。しかし、歴史学者石母田正は『うつほ物語』にこそ当該期の時代精神があらわれていると見、没落しつつある古代貴族の〈叙事詩〉としてそれを読み解きました。もっとも、彼が描いた〈共同性を喪失した人びとが生きる場としての古代都市〉という平安京像は見なおされ、批判もされています。

そうした研究状況をふまえたうえで、作品の内在的検討から歴史像を描こうとした石母田の方法を今一度振り返り、『うつほ物語』を読みなおすことを通して、平安時代とはいかなる時代であったのかを問いなおすとともに、文学作品を歴史においてとらえる方法についても考えてみたいと思います。

日時 2017年12月16日(土) 13:30~16:00

場所 奈良女子大学S棟1階 S125 講義室

報告 うつほ物語の〈声〉

長田明日華 (奈良女子大学大学院)

関連報告 色彩表現の持つ意味

—うつほ物語「国譲」巻を中心として—

小菅 真奈 (奈良女子大学大学院)



事前申し込みは不要、参加費は無料です。ふるってご参加ください

主催:奈良女子大学古代学学術研究センター

お問い合わせは、西村研究室 Tel. 0742-20-3319 まで